

ラグビーで発生しやすい ケガについて

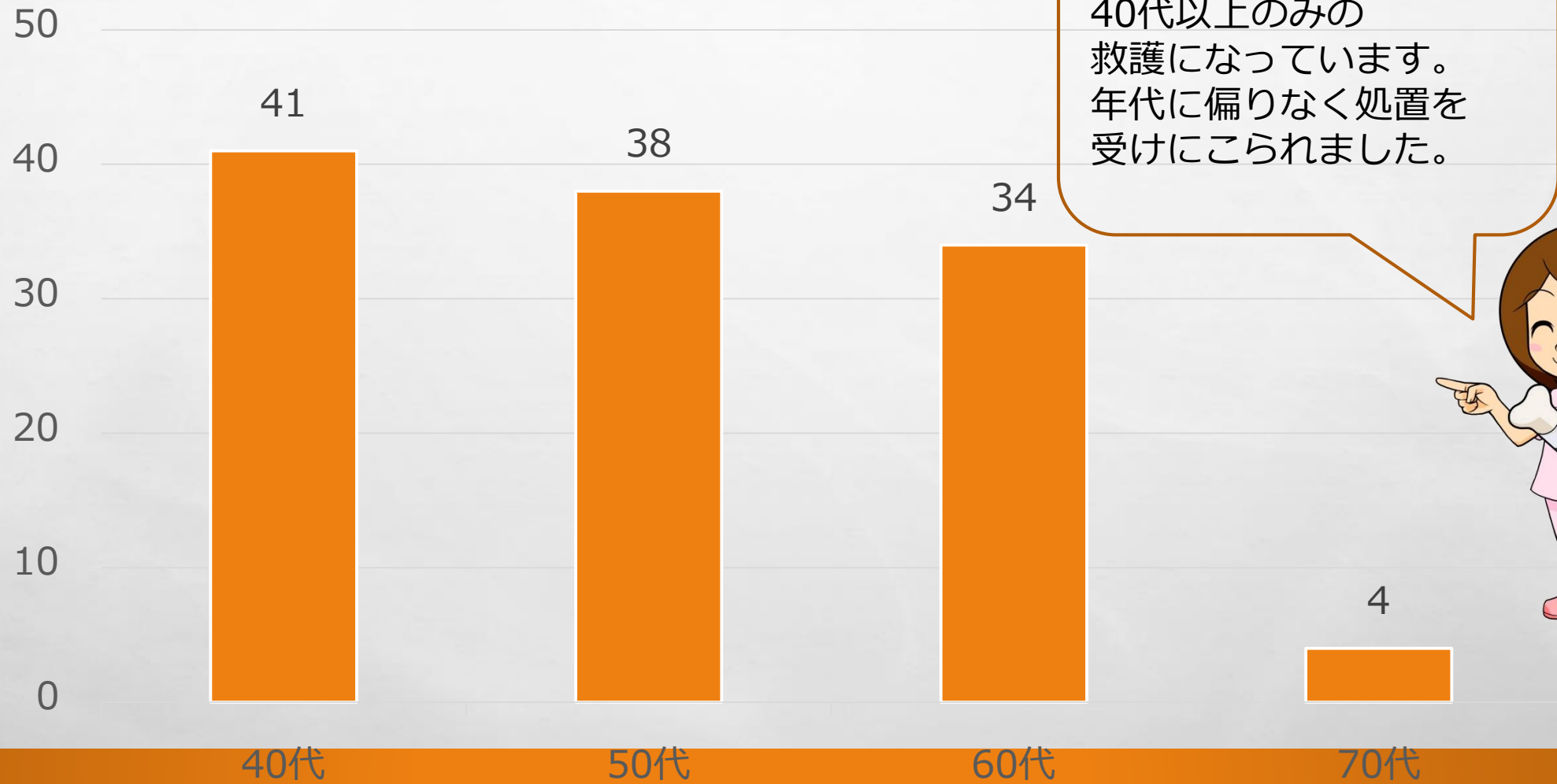
平成27年度 救護活動報告より



関西惑ラグビー大会

- 日時：2015年4月18日（土）、19日（日）
- 場所：J-GREEN堺
- 対象：惑ラグビー参加者（40代以上）
- 救護人数：114名（すべて男性）

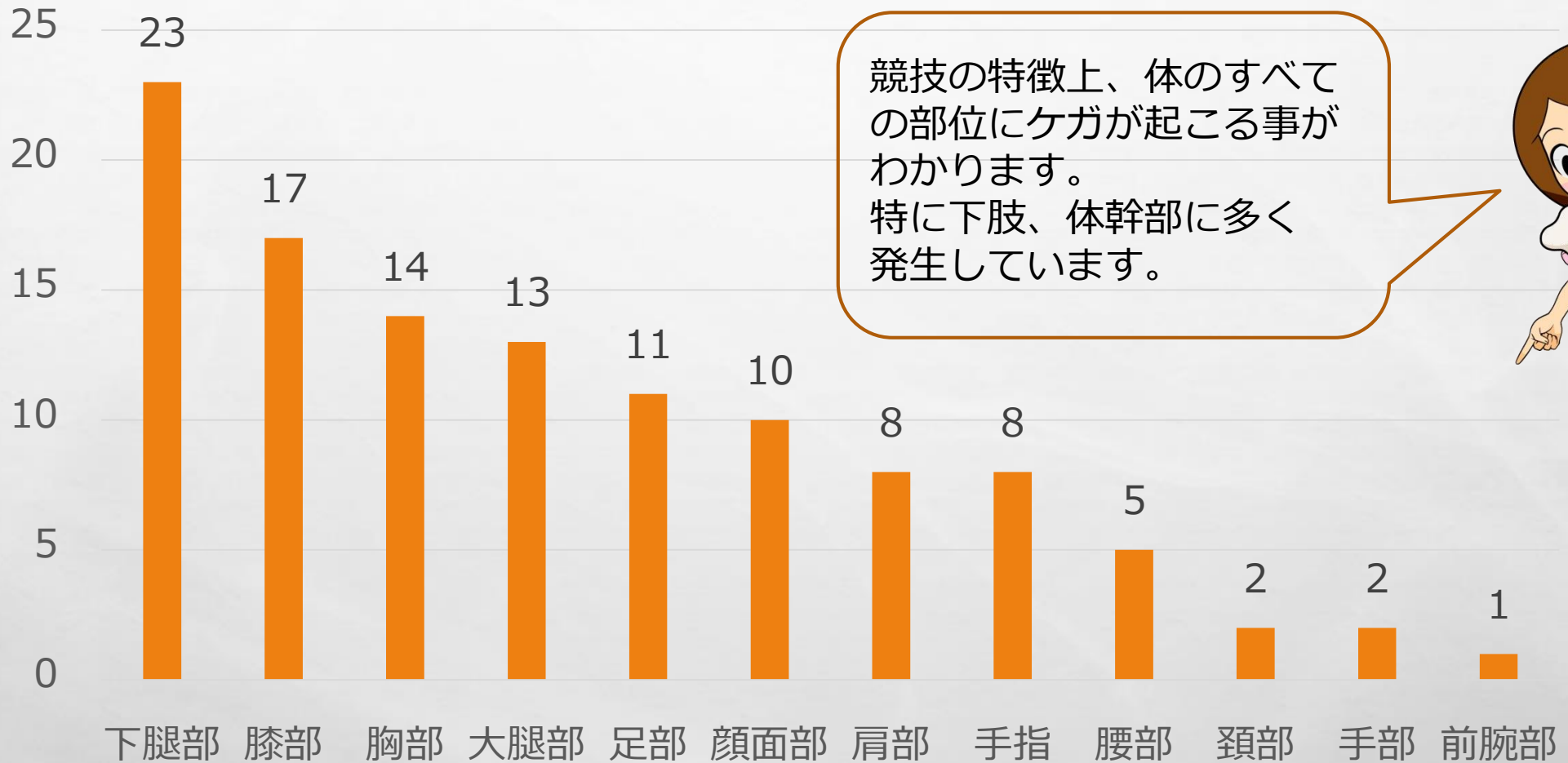
ラグビー 年代



40歳以上の大会のため、
40代以上のみの
救護になっています。
年代に偏りなく処置を
受けにこられました。



負傷部位まとめ



競技の特徴上、体のすべての部位にケガが起こる事がわかります。特に下肢、体幹部に多く発生しています。



● 手指内訳

第3指 (3) ・ 第4指 (3) ・ 第1指 (1) ・ 第2指 (1)

負傷内容まとめ

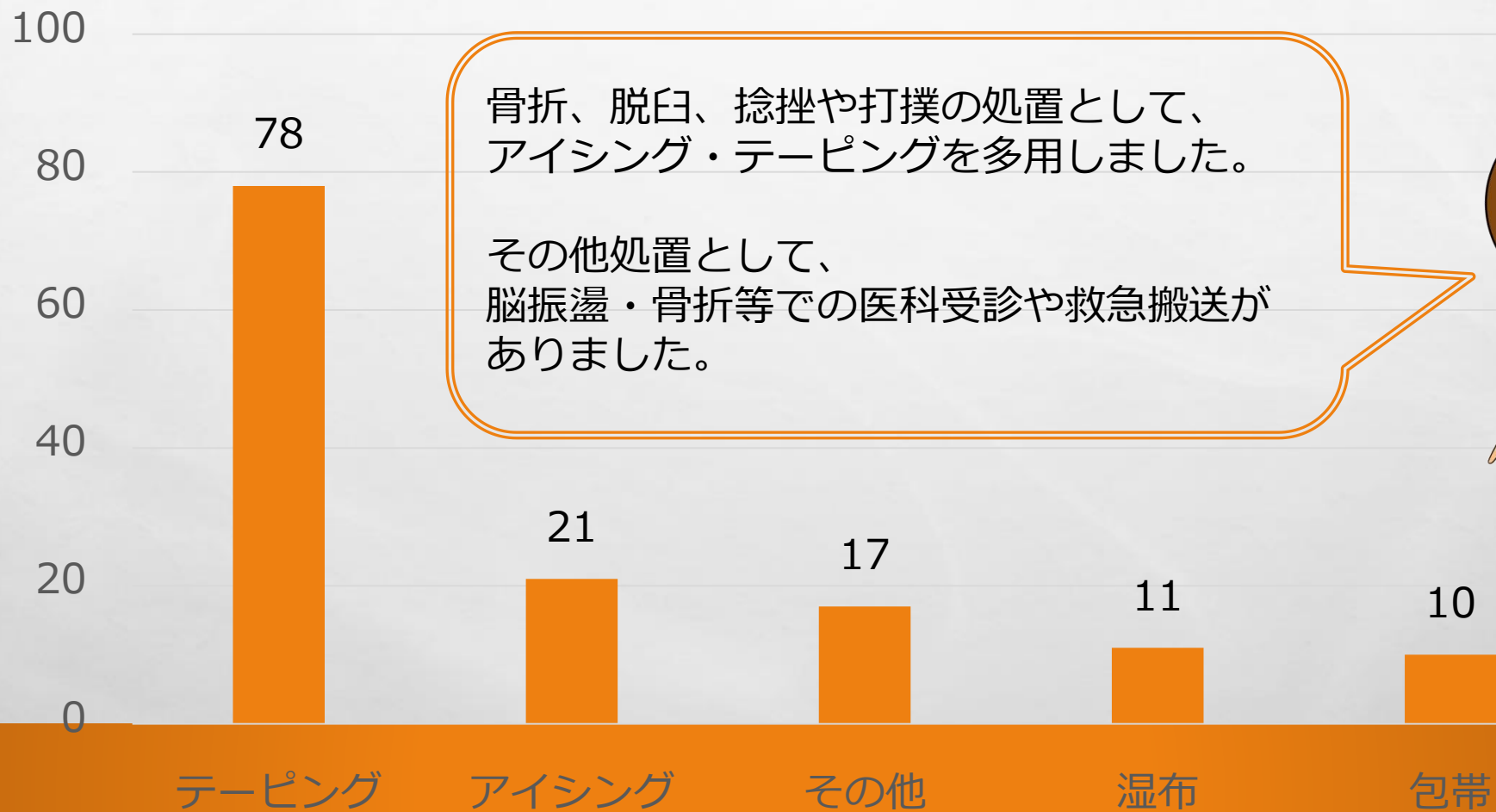


捻挫、挫傷、打撲は全身で発生していました。
出血は顔面部(鼻血)、手指部(爪)に多くみられました。

他のスポーツ救護状況よりも骨折・脱臼が多く発生しています。



処置まとめ



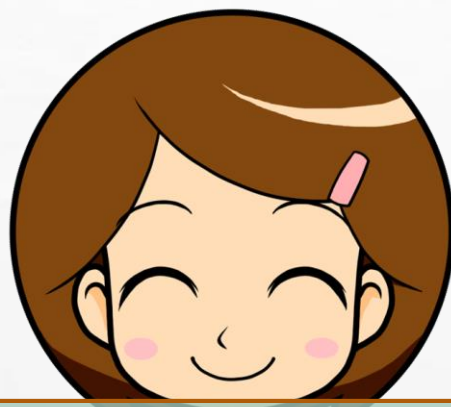
骨折、脱臼、捻挫や打撲の処置として、
アイシング・テーピングを多用しました。

その他処置として、
脳振盪・骨折等での医科受診や救急搬送が
ありました。



まとめ

- 捻挫、挫傷（肉離れ）、打撲はもちろんだが、骨折、脱臼も他のスポーツに比べて多く発生。
- 負傷部位は下肢に多いが、体幹など全身に発生。
- 負傷数、部位などから考えて救護活動が必要なスポーツであるが、負傷の予防として試合前のテーピングも積極的にとりいれる事が重要である。



40歳以上の方が参加する「惑ラグビー大会」において、医師との協力体制のもとで救護活動を行いました。

コンタクトスポーツの中でも激しいコンタクトのある競技であることから捻挫、挫傷（肉離れ）、打撲はもちろんだが、骨折、脱臼も他のスポーツに比べて多いといえます。

負傷部位は下肢に多く発生したが、体幹など全身におよんでいます。予防として試合前のテーピングも積極的に取り入れていただくことも重要だと考えられます。

頭頸部への負担も大きく、特に脳振盪はのちに重症化したり、時には生死に関わる場合もあるので、程度に係わらず競技を中止し、早急に医師の検査を受けるようにして下さい。